

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和2年度 第2回社会教育委員会議定例会		
事務局 (担当課)	生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)		
開催日時	令和2年11月16日(月)午後2時~午後4時		
開催場所	ウェルネスさがみはら7階 視聴覚室		
出席者	委員	13人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	8人(生涯学習課長他7人)	
公開の可否	可	不可	一部不可
	傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 新任委員紹介 2 生涯学習課長あいさつ 3 議長あいさつ 4 議題 (1) 今後の研究調査について 5 報告 (1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会第2回理事会について 6 その他		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

### 1 新任委員紹介

4月17日に新たに委嘱した小泉委員の紹介を行った。

### 2 生涯学習課長あいさつ

生涯学習課長があいさつを行った。

### 3 議長あいさつ

古矢議長があいさつを行った。

### 4 議題

古矢議長の進行により議事が進められた。

秦野委員から、生涯学習と社会教育について説明がされた。

#### (1) 今期の研究調査について

委員がこれまで取り組んできた社会教育・生涯学習に関する取組について、各委員から説明があり、その後意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

- これだけ多くの方が地域で活躍されている。

生涯学習あるいは社会教育としての学びというものをどのように学んでいったら良いのか。もう一つは、これだけ多くの方が関わっているので、それをどのように繋げていくのか。それぞれの取組の中で互いに応援を求め、あるいは繋げていくことができれば、それらが今言われている地域学校協働活動にも繋がっていくのではと感じた。

- 社会教育の在り方は、今まで対面・対話という直接的な関わりが重要視されてきたが、コロナと同居する中では新しい在り方があっても良いと思う。試行錯誤になるが、相模原市はどのような方向性があるのか考えても良いのではないか。

大学で授業を行う際、これまでは教室で学生と対面して行っていたが、大学院の学生は夜遅くまで授業を受けてから帰宅するという身体的負担があった。しかし、コロナ禍により全ての授業を zoom で行うことになり、体験が限定されてしまう面はあるが、学生の身体的負担が少なくなり学習しやすくなったという面もあった。出掛けることは健康促進にもなるが出掛けなくてもできるという在り方も今後の社会教育の展開としてあり得る。しかし、オンラインを活用できない弱者をどうサポートしていくのか、これが次の大きなテーマになると思う。

- 現在、大学の授業をオンラインで行っているが、これまで参加型学習を専門とした授業を行っていたため、どうすれば良いのか非常に困った。通常であれば教室で対面で話し合うところを、オンライン授業では画面越しに行うため空気感が伝わり難く、やり難く感じた。

しかし、オンラインでもできる学習材料があり、一定の情報を提供して、それに対して個々

で考えた内容をグループで話し合い、共有したことで、これまで講義形式の授業ばかりだったのが、オンライン授業でみんな意見交換することができて良かったという学生からの反応もあった。

公民館等でも物づくり講座を行う際、主催者側に一定の学習素材をつくることが求められるが、対面しなくても学び合えるような仕組みや学習教材をつくっていかねばならないと思う。公民館のネットワークは重要であり、オンラインだからこそ市内全ての公民館で共通教材を使った講座等を行い、そこから派生して各地区で地域の魅力や課題を考えられると良い。その際、公民館に全て任せるのではなく、市で共通教材等をつくり、それに付け加えて地区オリジナルのものを組み合わせたトータルの講座ができると良いと思う。

- 次世代の地域社会の担い手育成について、事例紹介にあった次世代への橋渡しの取組を掘り下げて聞きたい。

教育振興計画に関して、学校・地域・公民館等は、今後新しい対応の在り方や立ち位置が求められるため、今までとおりとはいかないと思う。学校も今までの在り方では、学習指導要領や教育振興計画に対応できないため、大幅な方向転換が必要だと考えるが、その中でも変えてはいけないものは何か、変えていくべきものは何か、軸をしっかり決めていかねばならない。

私が公開しているSNS上で、オンラインについての話が出たが、学生達からは「とても高齢者には無理だ」とのコメントがあった。私が取り組んでいる事業は現在休止中だが、細々とでも継続していく方法を見つけていこうと考えている。

- 子育て広場に来るお母さん方は子育て支援の受け手であるが、話を聞いてみると育児休業中の学校の先生や栄養士等、様々な道のプロの方がお母さんとして子育て広場に遊びに来ている。その方々に「あなたが持つスキルを、他のママと一緒に共有しませんか」と声を掛けると、ほとんど断られることがない。お母さん方は「久しぶりだから緊張する」と言いながらも、嬉々とした表情で自作の資料プリントを見せてくれる。

初めはどのような方が子育て広場に来ているかわからないが、話していく中で様々なスキルを持った方が見つかる。その方々に声掛けをしてミニ講座の講師を行ってもらおうと、参加者の嬉しそうな表情や反応が、講師をしたお母さんの喜びとなり、職場復帰への意欲に繋がる。子育て広場の支援スタッフは、地域のコーディネーターにもなり得るという次世代への橋渡しの取組事例として紹介した。

- 子ども達の自己肯定感等を育むためには、人との関わりは欠かせないものである。例えば今自分のいる場所というのは周りの風景や建物等で認知されるものであるが、子ども達が「自分がここにいるのも良いんだ」という気持ちは、学校の先生との関わりや様々な教材や授業を通じて育まれるものである。必要なものを便利に学習するためにオンラインを活用することは有効だと思うが、一方で子どもの学びたい意欲を育むためには、体験がとても重要である。

コロナウイルス感染防止対策を講じつつどこまでできるか天秤に諮りながら、子ども達の教育を止めてはいけないということが、現在学校で話し合っていることであり、保護者の方にも説明していることである。今年は地域との協働活動をなかなか進めることができないが、そういうことも含めてやっていかねばならないと思っている。

学校としても社会教育に繋ぐことは重要であると認識しているが、教員の働き方改革が推

進される中で、教員に過大な負担を与えることはできないため、学校を運営していく上では非常に重要な課題の一つである。

- 音楽に関するオンラインでの稽古を行っていたが、タイムラグが生じてしまい難しいため、実際に集まって稽古を行いたいとの意見があり、換気や三密に十分注意しながら稽古を再開している。

9月に相模原市と共同でコンサートを開催し、市内の子ども達と一緒に琴を弾いてもらう計画だったが、コロナウイルス感染症が拡大し、中止となってしまった。代わりに、現在、メンバーの2人が、有志の子ども達を募り、コロナウイルス感染防止対策に注意しながら、1対1で舞台に向けて琴を教えている。

- 個人的に効率化やオンラインを活用することは好ましく思っており、もし自身が大学生だった頃にzoomがあつたら、大学まで通う必要なく、家で自由に授業を受けられることは非常に良いことだと思う。しかし、このような状況で小学生の頃に戻りたいかと聞かれると、戻りたくないという気持ちが非常に大きい。

例えば、子ども達の修学旅行をオンラインで行うことは非常に難しい。効率化は良いことではあるが、残すべきものは大事にしつつ、慎重さをもって決断しないといけないと思う。市PTA連絡協議会としても、オンラインで家庭教育事業等を行っていくにあたり、会員からは「オンラインで行うべきだ」という意見がある一方、「対話を重視するべきだ」という意見も出ている。

- 人は失敗をして成長していくものであり、失敗の体験をしたときに「成功するためには、こういうやり方や考え方があるんだ」と考え学ぶことは、子ども達の成長にとっても大事なことである。しかし、オンラインでは失敗の経験をすることが難しいと思う。

コロナウイルスが治まるまでは、大きな事業はできないかもしれないが、感染拡大防止対策等を講じて、今できることを考えて、できる事業を重点的に進めていきたい。

- 今取り組んでいる発達サポート講座事業では、講座を受講した方々から「講座を通じて初めて知ることが多い」という声を聞く。子どもが発達障害と言われた当時は、子どもは普通に育っていくものだと思い、全く発達障害に関する知識がなかったため一人で悩んだが、周囲にサポートしてくれる友人がいたので無事子どもは育つことができた。しかし、現在、コロナウイルスにより、家に閉じ籠って一人悩んでいる方が増えているのではないかととても心配である。

発達サポート講座を通じて学んだ知識を、受講者が周囲に発信して、子ども達は誰もが様々な特性をもっているという理解を広められたら、例えば泣き叫ぶ子どもがいても知識があるだけで対応できることが全く違って来る。そういうことを、これからも更に広めていけたら良いと思う。

zoomでも講座を行っているが、全ての家庭にネット環境があるわけではないので、様々なツールを使って皆さんに知ってもらう機会を持ってもらえるように、私達も情報を発信していきたい。また、今講座を受講している方々にも、市内で発信して広めてもらいたいと思う。教室に居づらい、教室の環境が苦手だという子どもなど、様々な子ども達を、様々な場面でサポートできるような、そういう社会をつくれるよう協力していきたいと思う。

## まとめ

- ・ この会議が共通認識すべき事項として次の2点を確認したい。1点目は、対面の取り組みはとて重要であること。対面によってこそ達成できることが多々ある。2点目は、ウイズコロナ社会において、取組の開催頻度や手段等、間合いの取り方を工夫する必要があること。なお、この2点の中には、オンライン活用や新たな学習教材づくりも含まれる。
- ・ 2点について、会議の今後の進め方、研究テーマ検討を進めるにあたり共通認識すべき事項として確認した。

## 5 報告

### (1) 神奈川県社会教育委員連絡協議会第2回理事会について(報告)

古矢議長が、資料を基に報告を行った。

## 6 その他

古矢議長より、令和2年度神奈川県社会教育委員連絡協議会研修会の開催について、資料を基に説明を行った。参加希望を取り、藤嶋委員及び大野委員が研修会に参加することに決定した。

事務局より、11月13日開催の令和2年度相模原市総合教育会議の内容について、資料を基に報告を行った。議事録は、相模原市公式ホームページに掲載される予定であり、後日委員の皆様と共有することとなった。

事務局より、第3回定例会の日程について説明を行った。

第1回定例会は書面開催となったが、今後はコロナウイルス感染防止対策を十分に講じた上で、原則会合形式で開催する。なお、コロナウイルス感染症拡大等により開催が難しい状況が発生した場合には、会議開催の時期・方法等を委員に諮った上で決定する。

また、当初の予定では年度内最後の定例会を2月に開催しているが、今年度は当初予定していた6月定例会が中止となったことから、第4回定例会を3月中旬～下旬に開催することを検討している。第4回定例会の開催要否について、次回定例会で委員の皆様と協議いただきたい。

古矢議長のあいさつにより、会議を終了した。

以 上

令和2年度 第2回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	小泉 勇	相模原市立小学校長会		出席
2	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
3	中里 浩章	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
4	藤嶋 直司	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
7	若林 由美	一般社団法人星と虹色なこどもたち		出席
8	石川 利江	学識経験者(桜美林大学教授)		出席
9	秦野 玲子	学識経験者(RE Learning代表)		出席
10	古矢 鉄矢	学識経験者(学校法人北里研究所参与)	議長	出席
11	小林 政美	学識経験者(特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら 副代表理事)		出席
12	大野 俊文	公募		出席
13	長沢 亜希子	公募		出席
14	三井 泰平	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク 相模原市こども・若者自立サポート事業 総括コーディネーター		欠席

出席者 13名 欠席者 1名